

【15 回用】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
災害看護論		必修	1	4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
山崎洋子、伊丹幸子、堀口まり子	304	s.itami	月曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	災害が地域や人々の健康と生活に多大な影響を及ぼすことを理解し、自ら自然災害を疑似体験した上で、災害サイクルや活動現場に応じた被災者の健康や生活のニーズに対する看護の果たす役割について理解することを目的とする。また、災害医療・看護の基礎知識を理解し、災害医療の特徴・災害発生前の準備および災害の情報と亜急性期の看護、被災者への生活支援・看護職に求められるコーディネータとしての役割を教授する。さらに、災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護の実践に必要な知識・技術を同時双方向型授業や遠隔授業等で学ぶ。				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中およびリアクションペーパー、オフィスアワーにて受け付けている。積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めてほしい。				
教科書	看護の統合と実践② 災害看護学/編:小井土雄一、石井美恵子/メヂカルフレンド社/2020				
参考書	災害看護学・国際看護学/編:日本赤十字社事業局看護部/医学書院/2019				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	災害の種類と疾病構造、災害サイクルの特徴を理解することができる		NS(4)、NS(5)		
②	災害が地域や人々の健康や生活に及ぼす影響を理解することができる		NS(1)、NS(2)、NS(4)、NS(5)		
③	災害サイクルに応じた看護の役割について理解することができる		NS(4)、NS(5)		
④	病院における災害時の院内外での医療救護活動について理解することができる		HSU(3)、NS(4)、NS(5)		
⑤	被災者および救護者の災害によるストレスとその対処法を理解することができる		NS(1)、NS(2)、NS(4)、NS(5)		
⑥	自然災害を疑似体験することで、発災時の初期行動等について理解することができる		NS(1)、NS(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	災害および災害看護に関する基本的知識について学ぶ。	対面授業 演習	国内外の災害、災害看護に関する事柄に興味を持ち、新聞、教科書等から情報を得ておく。	1	
2				1	
3	災害時の医療と初動体制、避難所について学ぶ。	対面授業 演習	災害時の医療救護活動の基本となる CSCATTT を教科書等で再度確認する。新型コロナウイルス感染症について調べる。	1	
4				1	
5	災害時の医療救護活動について学ぶ。	対面授業 演習		1	
6	災害と災害医療体制と看護について学ぶ	対面授業 演習	災害時に活躍する組織(災害拠点病院、DMAT、DPAT 等)、災害時のパブリックヘルスについて授業配布資料と教科書等で再度確認する	2	
7				2	
8	災害時のトリアージについて学ぶ。	対面授業 演習	災害時の対応技術であるトリアージについて授業配布資料と教科書等で再度確認する。	2	
9				2	
10	避難所の要配慮者の生命と健康保護について学ぶ。	対面授業 演習	配慮者、こころのケア、避難所救護活動の基本となる CSCAHHH とヘルスケア トリアージについて授業配布資料と教科書等で再度確認する	1	
11				1	
12	被災者、救護者の災害時のこころのケアを学ぶ。	対面授業 演習	配慮者、こころのケア、避難所救護活動の基本となる CSCAHHH について授業配布資料と教科書等で再度確認する	1	
13				1	
14	災害時の医療救護活動の災害サイクルと看護の役割について学ぶ	対面授業 演習	地震災害、火山噴火災害の概要と発災時の初期行動等について各自で予習し、授業配布資料と教科書等で再度確認して授業に参加する。	1	
15				1	
試	定期試験				

【15 回用】

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	0	0	10	10	100
総合力指標	知識・技術力	20	0	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	20	0	0	10	10	30
問題を発見・解決する力		20	0	0	0	0	20
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	筆記試験とする。看護師国家試験と同じレベルの試験とする。				メールで回答の解説を送付する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①	✓	災害看護に必要な看護技術演習への事前・事後学習を含む、取り組みの姿勢・意欲を踏まえ総合的に評価する。				ポートフォリオに助言を入れ、返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
その他	①		出席日数と日々の受講態度等を総合的に評価する。				問題が生じた場合は、個別に面接を行う。
	②						
	③						
	④						
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
担当教員：①山崎洋子、②伊丹幸子、③堀口まり子 教員の実務経験：①保健師として保健所、市町村に10年勤務、また、大学病院の医療連携室での退院調整や療養生活相談等に勤務。②35年の県および市町村の行政保健師経験があり、災害時の計画の作成及び対応や数回の県外災害派遣を経験している。③看護師として、病院における災害看護を経験。 実践的授業の内容：保健所・市町村における行政保健師活動、災害援助活動および訪問看護活動等の実務経験を元にして、内容を構築し、災害看護について理解を深める。教員の経験からさまざまな事例を取り上げ、教科書と比較しながら学習する。 ・毎回講義に出席し、積極的な態度で授業に臨むことを重んじる。原則として理由のない欠席はしないよう心がけること。 ・学生の理解度に応じ、講義の速度や順番を調整する可能性がある。 ・大学から示されている感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢により、再度シラバス内容が変更となる可能性がある。							